

会報順番番号V-12

総合技術監理、建設部門
中垣内 一

地方で技術公務員として働くということ

自分の価値観で恐縮ですが、建設系の技術屋が目指す双璧は、“出来るだけ大きなプロジェクトに参画する”か、或いは“小さくても一国一城の主になる”ことだと思っていました。

大学卒業後、大きな仕事を求めて7年間ゼネコンに勤めましたが、父の死去に伴い、退職して父が興した会社を継ぎました。

巡り合わせで“一国一城の主”になりましたが、当時はバブル景気も終息しており、小さな工務店で新米の経営者の力ではとても不景気の波には抗えず、3年で廃業。

その年、たまたま市の技術職員採用枠の年齢制限が引き上げられていたことで、何とか拾っていただいて、現在に至ります。

就いてみれば、現在の「多くの工事を完成させて、多くの達成感を得られる」この仕事は、モチベーションを高く持ち続けることが出来る仕事だと感じていますし、何より、多くの市民に利用され、「便利になった」「良くなった」と、直接言ってもらえることに、非常に大きな喜びを感じています。

地方自治体の技術職は魅力的な職業だと思っています。

地域の道路整備でも、しっかり“地図に残る仕事”です。



〔日本技術士会岐阜支部 会報の情報連絡先〕

〒509-0108 各務原市須衛町1-179-1 テクノプラザ5F

TEL : 0583-79-0580 FAX : 0583-85-4316 Email : gcea9901@ybb.ne.jp

日本技術士会 岐阜支部 会報

2020.8.25

過去の自分がそうであったように、「地元へ帰っても自分の技術や資格を活かせる職場が無い」という思い込みについて、それは決して「大きな、技術的に高度な現場が無いから」ということでは無いことに、後になって気付きます。

今では、地元業界でも、IoT活用等先進技術の導入や、岐阜大学 ME 取得等従業員の技術力向上に積極的に取り組んでいる会社も増えてきています。

地方でも技術革新を次々取り入れていかなければ生き残れない時代、土建屋さんや町工場の技術力を侮ってはいけません。

中には世界を相手にしている方だっています。

そんな人たちと、腹を割って直接話し合いながら、1つ1つ課題を解決して仕事を進められる現職に巡り合えたことを、私は「幸運だったな」とつくづく思っています。

今年の豪雨災害に直面して、行政に対する市民の要求の大きさを改めて感じました。

中でも、被災状況を早期に的確に把握し、ライフラインの応急復旧方法を即座に考え指揮すること、その後の本復旧工事の設計の考え方を指示することなど、インフラ系の部署は昼夜を問わず対応することが求められます。

技術系公務員の必要性は依然として高く、現状分析や整備の方向性について度々見解を求められる行政技術士としての責務は重大であると認識しています。

以上



[日本技術士会岐阜支部 会報の情報連絡先]

〒509-0108 各務原市須衛町1-179-1 テクノプラザ5F
TEL : 0583-79-0580 FAX : 0583-85-4316 Email : gcea9901@ybb.ne.jp